

わたしの オススメ 2014冬

◆バカとテストと召喚獣

著：井上堅二 電撃文庫



◆全盲先生、 泣いて笑っていっぱい生きる

著：新井淑則 マガジンハウス



この作品はマンガアニメ化されたり、とても人気のある作品です。笑い恋愛友情など様々な要素が入っているので、誰が読んでも楽しめる作品になっています。何度も読んでも飽きない素晴らしい作品なので、図書室で一度借りてみてください。

病気で、両目の視力を失ってしまった国語の先生の新井先生。ひきこもり、自殺まで考えましたが日本初の盲導犬を連れて動くことになりました。目が見えなくてきれいな字をめくし、声だけで生徒がだれかわかります。そういうった周りの人への感謝の気持ちや努力のすばらしさを教えてくれる冊です。

みどりのぶんこ

緑の文庫

発行：文化委員

2年文化委員オススメの一冊を一挙ご紹介！

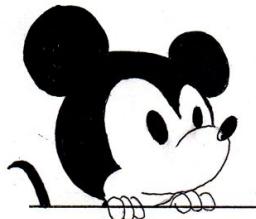
この機会にぜひ一読あれ。

緑中学校図書館

新刊を
続々と入庫
しています！

◆ミッキーマウスの憂鬱

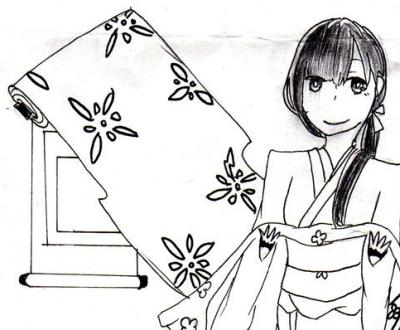
著：松岡圭祐 新潮文庫



◆路地裏のあやかしたち

綾櫛横丁加納表具店

著：行田尚希 メディアワークス文庫



気がよく知る、東京ディズニーランド。ある日、東京ディズニーランドでアルバイトをする事になった静。後藤、ディズニーへの書き癖がありつつも、少しずつ成長していく彼。そしてラジオミニ、ディズニー会話を続けるが大変事態が発生！その時、後藤は…。喜怒哀楽とフィクションが交差する爽快青春ドラマ。ミッキーマウスやディズニーオーナーと向き合える1冊です。ぜひ読んで下さい！

高校生の小幡光之介は父が残した作品が夜になると動きだす、といふ怪奇現象に悩んでいた。解決してくれる人が居ると、路地裏へ行くと信じられない光景を見る。

そこで「加納環」と名乗る「表具師」と出会い、作品にこめられた父の想いを知る。日常ではあまりふれない「表具」をテーマにした、あわくほろ苦い、そして懐かしさを感じる物語です。

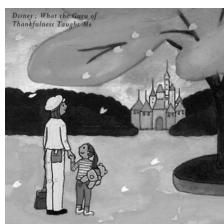
■ ブラック・ブレット 神を目指した者たち 黒の銃弾

著：神崎 紫電
アスキー・メディアワークス



ディズニー ありがとうの神様が 教えてくれたこと

著：鎌田 洋 SBクリエイティブ



親指さがし

著：山田 悠介 幻冬舎文庫

親指さがし



2021年、ウイルス小生の寄生生物「ガストリア」との戦いに敗北した人類は各地のモリスを閉じた。それから10年、人類は「ガストリア」に、対抗するため、ガストリアウイルスを体内に宿し、起人的な力をもつ少女たちインシエータ、彼女たちをサポートし監督するプロモーター、この二人がなる反撃ができた。民謡である、里見蓮太郎と藍原延珠はある日、政府から特命を受ける。その内容は東京を壊滅させかねないものだった。

この本はディズニーの元キャストの人が書いた作品です。
この本で「トト」と人が信じ合い、
皆で協力するすばらしさを感じました。

この本を通して感じた事を日々の生活にも生かして見たいと思りました。
ぜひ皆様も読んでみてください。

由美・武・智彦・知恵・俊の5人は13歳のとき「親指さがし」という遊びをする。それは殺された少女の亲指をさがす遊びで、車輪になって呪文を唱えると少女が殺された別荘に行ける。でも後ろから肩をたたかれたら絶対に振り返ってはいけないという遊びだった。

■ 失はれる物語

著：乙一 角川文庫



交通事故で五感の全てを失い、残ったものは右腕の皮膚感覚のみ。ピアニストの妻はその腕を鍵盤に見立て、日々の想いを演奏で伝えてくれる。それは「私」にとっての唯一の救いだ。たが…。

表題作の他、乙一の傑作短篇5作と書き下ろし2作を収録。涙をぬぐふ。
感動、悲喜、いろんな感情を詰め込んだ作品です。

ATARU

著：櫻井 武晴 百瀬しのぶ
角川文庫

ATARU

キノの旅

著：時雨沢 恵一
アスキー・メディアワークス



ある日、躑躅舞子という敏腕女性警察官が事件現場に行ったら、なぞの男がいました。その男の名前は、チョコザイ(本名猪口在)。舞子はチョコザイの保護責任者になり、チョコザイの身元引き受け人を探しながら、色々な事件を解決していきます。

人間のキノと言葉を話す二輪車エルメスの旅の話です。キノとエルメスはいろいろな国に行き、そこで人に出会い文化にふれながら旅をしていきます。個性的な国や人がいっぱい出てくるので、みなさんも読んでみてはいかがですか。